

## 国際協力関連

コーディネーター：内藤 毅

2017 年は 2016 年に開始した JICA(国際協力機構)の草の根技術協力プロジェクトの現地活動のため頻繁にネパールへ渡航した。ネパールへは 1 月、3 月、4～5 月、6～7 月、8～9 月、11 月、12 月の 7 回渡航し、6 月にはモザンビークでアイキャンピングを行ったので活動を報告する。また昨年に引き続き、JICA プロジェクト関連では 2 名の眼科医が研修に来た。また、ネパールで徳島大学医学部生 2 名の眼科臨床実習（クリニカルクラークシップ）の指導も行った。

### 2016 年度

#### ネパール 1 月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

1 月 16 日（月）夕方、徳島から羽田へ移動  
1 月 17 日（火）羽田～バンコク～カトマンズ。  
1 月 18 日（水）～22 日(土)JICA プロジェクト業務  
1 月 19 日（日）～24 日(木)眼科臨床実習指導およびプロジェクト業務  
1 月 26 日（木）帰国

#### ネパール 3 月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

3 月 15 日（水）午前、徳島から羽田へ移動  
3 月 16 日（木）羽田～バンコク～カトマンズ  
3 月 17 日（金）JICA プロジェクト会議  
3 月 18 日（土）午後、空路カトマンズからボカラへ移動  
3 月 19 日（日）ヒマラヤ眼科病院で技術指導  
3 月 20 日（月）午前、ボカラから空路カトマンズへ移動  
午後、プロジェクト会議。  
3 月 21 日（火）小児眼科病院で技術指導。JICA ネパール事務所面で談  
3 月 22 日（水）午前、プロジェクト会議。午後、技術指導  
3 月 24 日（金）帰国

### 2017 年度

#### ネパール 4～5 月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)

4 月 19 日（水）夕方、徳島から羽田へ移動  
4 月 20 日（木）羽田～バンコク～カトマンズ  
4 月 21 日（金）プロジェクト会議  
4 月 22 日（土）UNICEF との会議  
4 月 23 日（日）眼科医研修準備  
4 月 24 日（月）～5 月 5 日（金）トリブバン大学で眼科医研修を開催・指導  
5 月 8 日（月）プロジェクト事務仕事および会議  
5 月 9 日（火）プロジェクト事務仕事および JICA ネパール事務所で会議  
5 月 11 日（木）帰国

#### モザンビーク眼科医療支援プロジェクト(独自プロジェクト)

6 月 7 日（水）関空～ヨハネスブルグ（キャセイ航空）  
6 月 8 日（木）ヨハネスブルグ～ペンバ（南アフリカ航空）  
6 月 9 日（金）ペンバ病院で患者診察および手術場を設営  
6 月 10 日（土）42 人の白内障手術施行  
6 月 11 日（日）術後回診、41 人の白内障手術施行  
6 月 12 日（月）術後回診、75 人の白内障手術施行  
合計 158 人の白内障手術終了  
6 月 13 日（火）器材梱包、撤収  
6 月 14 日（水）ペンバからヨハネスブルグへ移動  
ヨハネスブルグ泊  
6 月 14 日（木）ヨハネスブルグ～香港

6月16日（金）帰国

**ネパール 6～7月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)**

6月26日（月）夕方、羽田へ移動

6月27日（火）関空～バンコク～カトマンズ

ネパール眼科病院で眼科医研修指導。

6月28日（水）～ 7月7日（金）ネパール眼科病院で眼科医研修指導

7月9日（日）帰国

**ネパール 8～9月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)**

8月28日（月）夕方、羽田へ移動

8月29日（火）羽田～バンコク～カトマンズ

小児眼科病院（CHEERS）で眼科医研修指導

8月30日（水）～9月8日（金）CHEERS で眼科医研修指導

9月10日（日）帰国

**ネパール 11月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)**

11月6日（月）夕方、羽田へ移動

11月7日（火）羽田～バンコク～カトマンズ。JICA プロジェクト会議

11月8日（水）終日 JICA プロジェクト視察および会議

11月9日（木）終日 JICA プロジェクト視察および会議

11月10日（金）トリブバン大学で看護師研修準備

11月12日（日）～11月14日（火）トリブバン大学で看護師研修指導および眼科臨床実習指導

11月15日（水）～11月17日（金）プロジェクト業務および眼科臨床実習指導

11月19日（日）帰国

**ネパール 12月 JICA プロジェクト(徳島大学、JICA 予算)**

12月19日（火）早朝、関空へ移動。関空～香港～カトマンズ

12月20日（水）CHEERS で会議。トリブバン大学附属病院訪問

12月21日（木）CHEERS でプロジェクト業務

12月22日（金）CHEERS でプロジェクト業務

12月24日（日）帰国

**2017年ネパール活動概略**

昨年から開始された JICA 草の根技術協力プロジェクト「ネパールにおける網膜疾患診療サービス強化プロジェクト」は、実行するにつれて種々の問題が発生したものの、その都度問題を解決しながら着実に実行している。問題の多くは計画段階では想像できなかったことであり、事前の情報収集が足りなかったことに起因している。また、予算執行に関しては、徳島大学ルール（文部科学省ルール）、JICA ルール、そしてネパールの現地ルールを遵守しながら予算使用の透明性を確保しながら行っている。

2月には2名のネパール人眼科医が研修のため来日し、徳島大学で約1ヶ月間研修した。トリブバン大学 B.P. Koirala Lions Center for Ophthalmic Studies (BPKLCOS)の Pratap Karki 先生と小児眼科病院 Chidren's Hospital for Eye Ear and Rehabilitation Services (CHEERS)の Arjun Shrestha 先生で、二人ともネパールで硝子体手術を精力的に行い、研修後はさらなる手術技術の発展が期待できる。今後のネパールでの指導者としてネパールの眼科を発展させるとともに、我々のプロジェクトにも力を注いでくれるであろう。



手術研修中の Pratap Karki 先生（左）と Arjun Shrestha 先生



ネパール眼科病院での眼科医研修風景

我々のプロジェクトの重要なプログラムに眼科医講習がある。4月、6月、8月にカトマンズで3回の眼科医講習会を行った。それぞれ2週間の日程で網膜硝子体疾患に関する内容の講習会を行ったところ、参加者は合計15名で、カトマンズ以外の地域からの参加者もいた。ネパールでは白内障手術の出来る眼科医は増えてはきたが、網膜硝子体に関しては厳しい現状であり、我々の講習会への期待が高まっている。講習の内容に関しては好評で、講習会後の経過観察、各病院における更なる技術指導も行う予定である。

さらに、眼科助手やオプトメトリストの講習会も行った。これらの講習会は1週間の日程で行われ、ほぼ共通の講習内容で行った。5月にはボカラのヒマラヤ眼科病院で眼科助手講習会を行い、7月にはネパール眼科病院で眼科助手講習会を行い各々10名の参加があった。さらに10月には小児眼科病院で眼科助手講習会を行い11名の参加があった。また、11月にはトリブバン大学で看護師講習会を行い10名の参加があった。看護師講習会は3日間のプログラムで網膜疾患の理解と患者への説明等に関する研修を行った。

11月にはJICA四国事務所からの一行がプロジェクトの現地視察に来られ、カウンターパートとの会議、プロジェクト協力病院視察、指導医や研修終了者との面談を行った。11月のJICA視察団のネパール現地視察結果を踏まえて、12月に徳島大学に外部講師を呼び、PCM (Project Cycle Management) 講習会を行い、PDM (Project Design Matrix) の改定を試みた。我々のJICAプロジェクトは順調に推移しているが、所々見直しが必要となって来ている。さらに12月には徳島大学国際センターから金センター長らが現地視察に来られ、カウンターパートとの会議、トリブバン大学附属病院視察を行った。JICA現地事務所でPDM改訂に向けての検討を行った。

JICAプロジェクトの合間に眼科臨床実習を行っているが、1月と11月に各々1名の希望者を現地で指導した。また、1月には香川の西原先生の息子さんがトリブバン大学での実習に参加した。さらに静岡県立総合病院の渡部先生がゴール眼科病院の見学のためネパールに来た。彼は、モザンビークでのアイキャンプにも参加し、今後国際協力を行う予定である。今後若い世代が活躍することを期待したい。



徳島大学医学部学生のネパールでの臨床実習風景



ネパールで実習中の西原君(左)と佐々塚君(右)

## 2017年モザンビーク眼科医療支援プロジェクト（独自プロジェクト）

アフリカ眼科医療を支援する会 (AOSA, <http://aosa-eye.org>) の2017年のモザンビーク眼科医療支援（アイキャンプ）はモザンビーク北部のペンバで行うことになった。昨年はシャイシャイで行い、しばらくはシャイシャイでの開催かと思っていたが、おそらくペンバからの要請が強かったためであろう。

また、船便で送った荷物がなかなか現地に到着せず、大変気を揉んだ。幸い、出発直前には無事届いたが、このこともあって、出発の時点ですでにかなり疲れていた。

6月7日（水）雨。ちょうど出発の日に梅雨入りの発表があった。午後2時過ぎに関空に集合した。姫路のツカザキ病院から長澤先生、野口先生、視能訓練士の石飛さん、そして大阪の井口さんのいつもの面々が集合した。同時期に成田空港から出発する看護師の沼田さんから無事チェックインしたと連絡があった。香港で落ち合ってモザンビークへ行くことになった。夕方のキャセイ航空の便で香港に飛行し、無事合流した。そして香港で乗り換え、ヨハネスブルグへ飛んだ。

6月8日（木）晴れ。早朝のヨハネスブルグに到着した。空港で綺麗な日の出を見た。ヨハネスブルグではザンビアの眼科医の Dr.Phiri が合流した。以前からザンビアでの活動要請があったが行く時間がないため、我々のアイキャンプを見に来てもらった。ヨハネスブルグからペンバへのフライトでは機体不調のため出発ゲートで待たされた。今まで色々な経験があったので、つつい悪いことを考えてしまったが、到着が約一時間遅れただけで、無事ペンバに到着した。空港では眼科助手のセルジオさんと若い眼科医のクリストファー先生、そして、現地在住の宝山さん、協力隊の久長さんと島田さんが出迎えてくれた。長旅の疲れを癒すため、早めに夕食を済ませ就寝した。



ペンバ空港到着



待っていたたくさんの患者

6月9日（金）晴れ。今日から本格的にアイキャンプ開始となった。今回は地区ごとに分けて患者さんを集めており、はじめはムエダなどの遠いところからの患者さんたちでマコンデ族の人たちが多く見られた。遠いところから来た患者さんたちを先に手術して早く帰ってもらおうという考えである。初日の患者数は多くなく50人程度であった。診察の後、手術室の設営と顕微鏡の組み立て、手術器具の滅菌依頼を行って日程を終了した。

6月10日（土）晴れ。朝9時から手術を開始した。まず、長澤先生と野口先生が手術を開始し、ザンビアの先生も加わった。ザンビアの先生は女医であるがかなりアクティブである。

モザンビークでも眼科医は女医が多い傾向がある。ザンビアの先生は今までにかなりの白内障手術経験があり、モザンビークの眼科医に比べ手術技術は優れていた。昼過ぎには42名の手術を終了した。その後、翌日の手術予定の患者の診察を行い予定を終了したが、思ったより患者数が少ない。ラマダンのためか、経済状況悪化のためアイキャンプに来る余裕がないのか色々考えてしまう。

6月11日（日）晴れ。朝、海岸散歩したが空気が清々しい。病院に到着後早速昨日手術した患者さんの回診を行った。経過は概ね良好であり患者の笑顔が溢れた。回診後、さらに手術予定患者を診察し、昼過ぎには41名の手術を終了した。近隣の村から33名の患者さんが来ると言っていたが車がパンクし遅く到着したため翌日診察することになった。

6月12日（月）晴れ。連日晴れである。

前日手術した患者さんの回診後、前日到着した人も含め患者を診察し、手術患者を選択した。夕方には先天白内障の子供を含む75人（76眼）の手術を終了した。子供の手術はキューバ人の麻酔科医が全身麻酔を担当し無事終了した。最終的には3日間で合計158人（159眼）の手術を終了したことになる。その後、次回に備えて物品を梱包した。前半患者数が少なく目標達成感という点ではやや不満ではあるが、ラマダン等の影響を考えると十分な成果が得られたと思う。

6月13日（火）晴れ。前日手術した患者さんの回診を行った。困難な患者も多かったが結果は良好であった。特にすでに片目を失明している患者さんが一人で歩けるようになったのを見ると、感慨深い。その後



患者さんたちと記念撮影を行った。溢れる笑顔と歓喜でいっぱいとなった。昨日梱包した荷物は宝山さん宅へ発送し全ての日程を終了した。



ザンビアの眼科医への指導



アイキャンプ最後の記念写真

6月14日（水）往路と同じ経路で帰国の途に着く。午後ペンバから空路ヨハネスブルグへ移動、一泊

6月15日（木）ヨハネスブルグから香港に向けて出発。

6月16日（金）香港を経由して予定通り関空に到着した。

今年は3月にモザンビーク大統領が来日し、安倍首相夫妻の夕食会に招待された。夕食会では、経済格差の改善のためにも白内障手術は重要であることを説明させて頂いた。



総理公邸で安倍総理との記念写真